

9.19津田沼集会に100名！再建支部策 動を粉碎！

動労「本部」反動集団は、今日まで暴力とニコポン戦術の使い分けをもって、動労千葉一四〇〇の団結を破壊せんと策動し、断じて許すことの出来ない4・17津田沼支部への殺人をもいとわない凶暴な襲撃、4・28・5・1の破壊攻撃にも失敗、動労千葉の組織破壊が困難とみるや、トラの子のカクマル潜入分子・島田と労働組合になんの責任もたない輩をかき集め、丸裸のまま「本部」派支部のデッチ上げを画策している。しかし、この策動も8・30・31における動労千葉の敢然とした反撃の闘いの前に音をたてて崩れさり、「本部」反動集団は動労大改革運動への全国的な共感の渦が造り出されてきている現実を目をつぶる訳にはゆかないところまで追いこまれている。こうした状況のもと、全支部からの決起をもって津田沼支部の闘いを担う体制をさらに強化すべく九月一九日、一〇〇名の結集をもって「本部」派支部デッチ上げ策動粉碎・裏切り分子糾弾」の津田沼集会が開催され、終日、き然とした体制を維持する中で、組織破壊攻撃を許さず、体制強化をかちとっていった。

鉄労と同じ「本部」暴力集団！

九月一九日、九時三〇分、津田沼支部組合員をはじめ、各支部からの代表者がつきつきと結集しはじめた。一二時すぎ、一〇〇名の参加者は全員三階の講習室に集まり、集会が始められた。

集会は、動労千葉高橋執行委員の司会で進められ、布施教宣部長より、動労千葉をめぐる今日の情勢と展望、とりわけ全国大会以降における動労千葉の闘いと前進、全国からの決起の状況が報告され、今後の闘いの方向性が、具体的に提起されていった。

続いて、裏切り者を糾弾し、「本部」派支部デッチ上げ策動粉碎の闘いを最先頭で闘っている片岡津田沼支部長より力強い決意の表明が行われた。

全参加者は職場をドロ靴で汚し、当局に泣きつき、裏切り分子を防衛すると称して、動労千葉と国労の組合員が長い苦闘のすえ、闘いとり、築きあげてきた成果津田沼の職場慣行を三項八号の適用を当局に泣きつくなど、マル生時における鉄労と同じ立場から破壊せんとするこうした暴挙は断じて許せないことを確認した。

動労千葉の前進に焦り 消耗する反動集団！

「本部」反動集団は、一〇時二〇分頃、「本部中執」を自称する「竹内」なる人物と、特執・塩谷など二一名が、こそこそと現われ、例によって電車区構内の中庭にある鳥小屋の周囲にたむろし

はじめた。何をやる訳でもなく、ただゴロゴロするだけで、塩谷や竹内が当局に話しをすると称して時々庁舎へ入ってきては、中の様子をみにくることしかできない。

最近発行された『動力車新聞』号外ハその29Vには「総連合構想」に対する不安がメンメンと書きつらねられているが、これはこのような「オルグ」団の消耗と裏切り分子のグラグラ化、さらには全国的な動労大改革の前進を必死にたていんべいしようとする「本部」反動集団の焦り以外のなにものでもない。

しかし、惨たんたる状況に終った全国大会を「成功した」などというキベンを押し通すためさらに暴力支配を強めようとしていることは動労千葉一四〇〇名と全国の闘う仲間にはっきりと見抜かれてしまっている。

10・21反戦・秋期闘争の 高揚をつくり出そう！

いまわれわれは、9・16を出発点として10・21反戦闘争を三里塚II労働連帯をかかえて闘い抜こうとしている。

そして、この闘いと固く結合して動労千葉の路線の正義性・優位性をさらに全体化し、第二マル生「国鉄三五万人体制」攻撃粉碎へ向けて、職場からの闘いをつくり出してゆこう。

「本部」反動集団の職場を売り渡す路線的右傾化と暴力支配に真向から対決し、自らの職場を自らの闘いとおして守り抜いてゆく、そういう闘いを今こそ創り出してゆかなければならない。

苦闘の末かちとった職場慣行 を破壊する者は許さない！

動労千葉第一回団結祭典を成功させよう！

日時 一九七九年一〇月二八日(日)、場所 千葉鉄道学園グラウンド